

Before
After

道しるべ

道徳通信

上尾市立太平中学校
道徳通信 第2号
令和6年6月17日(月)
発行者 校長 井浦 博史



「言葉」の大切さ

教頭

「言葉」の意味を、調べてみると、以下のように書いてありました。

一人が声に出して言ったり、文字に書いて表したりする、意味のある表現

私たちの生活の中では、当たり前ですが「言葉」はなくてはいけないものです。自分が思うことを「言葉」を通じて相手に伝えたり、相手の思うことを「言葉」を通じて理解したり、ある意味、「言葉」は、お互いの事を理解し合うためのツール（道具）です。

私は、今まで生きてきた中で、多くの人に出会い、何度も「言葉」を通じて、励まされたり、温かい「言葉」を掛けられてきました。今の自分があるのも、多くの人からの「言葉」のお陰だと思っています。

しかし、「言葉」は、遣い方を間違えると、相手の心に深く刻み込まれるものとなります。また、このことは、その相手だけでなく、周りの人にも影響を及ぼすこともあります。

「声に出していう言葉」は、当たり前ですが、その「言葉」自体は目に見えません。だからこそ、相手に自分が思うことを伝えるためには、「責任」が求められます。つまり、それは、「意味のある表現」にするためです。

一方、「文字に書いて表す言葉」は、目に見えます。しかし、そこにも「意味のある言葉」にするためには、「責任」が求められます。（今、私が、この文章を作ることについても、「責任」もって作っています。それは、みんなに分かってほしいからです）

さて、今、皆さんは、一日の大半を学校で過ごしています。学校は、皆さんが、将来、たくましく生きていくために必要なことを学ぶところです。それは、学校の先生から学ぶことだけでなく、同級生や先輩・後輩から学ぶことも含まれます。みんなが、よりよく生きていくためには、一人一人が「言葉」を大切にすることが必要です。自分の気持ちを伝えるためには、相手の事を考えた中、責任をもつことが必要です。そこには、「思いやり」という要素も入ってきます。

皆さん、今一度、自身の「言葉」の遣い方を振り返ってみてください。もし、反省しなければいけないところがあるならば、今からもう一度気を付けていきましょう（このように気づいただけでも意味があります）。

私は、「言葉」を通じて、みんなが温かな気持ちになり、過ごしやすい学校生活を送ってほしいです。

「一人ひとりが…」

主幹教諭

来年2025年、大阪で万国博覧会が開催されることは、ニュースなどで耳にしたことがあるのではないのでしょうか。今から40年以上前の1970年、同じ大阪の地で、アジア初の万国博覧会が開かれました。「万博」は、世界の様々な都市で開かれている国際的なイベントで、各国の最先端技術や文化、芸術を世界に向けて発信する国際交流のイベントです。当時日本は、高度経済成長期で、来場者は過去最高の6420万人でした。中でもアメリカ館はアポロが月から持ち帰った「月の石」が展示され、入館するのに5時間以上待つなど話題となりました。その「万博」に当時、小学2年生だった先生も行くことになりました。初めて新幹線に乗り、それだけでわくわくでした。会場では、ここは日本かと思うほど、外国人が多く、見るものすべてが新鮮でした。いくつかのパビリオンを回り、お昼を食べようと会場内の食堂に入りました。食堂もたくさんの人であふれていました。先生はきつねうどんを注文しました。運ばれてきたうどんを見てびっくり。うどんの汁が透明だったのです。先生の知っているきつねうどんは、汁が茶色で四角い油揚げが乗っているものでしたが、運ばれてきたものは、油揚げは乗っているものの、汁が透き通っていたのです。先生は思いました。「あまりにお客さんが多く、お店の人が、醤油を入れるのを忘れたんだ。」そこで近くのテールのうどんをのぞいてみると、どのうどんも汁が透明で、うどんが透けて見えていました。そこで恐る恐る汁を飲んでみると、しっかりと味がついていて、とてもおいしかったのです。午前中歩き回ったこともあり、汁も残さず完食しました。先生は思いました。「大阪のうどんって、なんておいしいのだろう」

その後も会場内を歩き回り、いくつかのパビリオンを見学した後、旅館に向かうため電車に乗りました。通勤帰りの人たちで電車はとても混んでいました。先生は手すりにつかまり、しばらくは眠気に耐えていましたが、1日中歩いていた疲れが出て、立ったまま寝てしまいました。すると膝が突然カクンとまがり、倒れそうになりました。慌てて手すりにつかまり床に倒れずに済みましたが、周りの人たちはそれに気づいたようでした。すると先生の前に座っていた若い女の人が、にこにこ笑いながら、「どうぞ」と席を譲ってくれたのです。先生は思いました。「大阪の女の人って、なんて優しいのだろう」

あれから40年以上たちますが、先生はいまだに大阪のうどんはおいしくて、大阪の女の人優しいと思っています。大阪にもおいしくないうどんや冷たい女性はいるかもしれませんが、先生はそう思っています。つまり先生の食べたうどんと先生に席を譲ってくれた女性は、大阪を背負っていたこととなります。

人はよく、誰か一人の言動を、その人間が所属するグループや集団としての言動と、ひとくくりにして捉える傾向があります。たとえば、先生が掃除監督をしている生徒たちはとてもよく掃除をします。だから先生は思います。「1年3組は掃除をととてもよくやるクラス」。また、ある時バスケットボールを持った男子が元気に笑顔であいさつしてくれました。だから先生は思います。「男子バスケット部は挨拶がよくできる部」。こんな風にひとくくりにしてその集団を評価します。これは学校の中だけの話ではありません。

たまたま学校にかかってきた電話に先生がでると、「下校中、横にひろがって歩いているは、自転車で右側を走っているは、横断歩道のないところを飛び出すは、太平中学校は何って学校なんだ!!」と、お怒りの電話でした。地域では、みなさん一人ひとりの行動を太平中学校とひとくくりにして評価するのです。つまり、みなさん一人ひとりが太平中学校を背負っているのです。

地域の人たちは、みなさん一人ひとりの言動を見ています。この地域に「太平中学校は素晴らしい学校だよ」という話が広がるようになると、地域に誇れる学校になりますね。

